



地域とともに育つ祖師谷の子どもたち

副校长 千住 希望

空の青さが秋のそれになり、ぽっぴらの木の葉がだんだんと色づいてきました。からつとした爽やかな風が吹く中、どの学年も校庭や体育館、ときには教室で、運動会の練習に励んでいます。子どもたちが頑張る理由として一番大きいのは、お家の人に「がんばったね。」とか、「かっこよかったよ。」と感動して褒めてほしいという思いからです。

学校は子どもたちに対して、学期ごと、行事ごとに目標を立てるよう促します。そして、達成してもしなくとも、自分の努力した過程を振り返り、次のチャレンジに生かしたり、さらに課題に挑戦したりすることで成長していきます。教員はこのサイクルを大切にして、「よりよくなろうとする意欲」や「失敗したことを受け止めて自分の気持ちをコントロールする術」などを身に付けさせます。高学年になるほど、自分自身に対して「自分はよく頑張った。えらい！」と感じられるようになります。また、友達の頑張りも同じように認められるようになります。こうした経験の少ない子どもと多い子どもでは、社会に出たときの耐性に大きく違いが見られるそうです。

今年度の運動会は何年ぶりかで、団体競技が加わりました。これは、学年での結束力や絆を深めるばかりでなく、思い通りにならないことや負けてしまうこともあるという大きな経験をするためでもあります。悔しいことや恥ずかしいことから、逃げたり目を背けたりしていってはかっこいい大人になれません。負けた自分を励まして一步踏み出す力や、転んでうつむいている友達の励まし方を知って、初めて人の痛みの分かる本当に強くて優しい人になるのだと私は考えます。

最近、下校途中に本校の子どもたちが危ない行動をとっていると、近隣の方々から何回かお電話を頂戴しました。保護者も教員も四六時中、子どもたちのことを見守っていてはあげられませんし、注意をはらって危険から遠ざけてあげることも無理です。子どもたちが、子どもたちだけの世界で話したり、笑ったりしているそんな通学路上でも、失敗やけがを繰り返しながら、温かい地域の皆様の「いつかの自分の子どもを見守るような眼差しで支えていただいている」この祖師谷という地域に、私は感謝しかありません。散らかしたゴミや小石を片付けたり、振り回している棒を「危ないよ。」と声をかけてくださったり、本当にありがたいことです。子どもたちはきっと知らないかもしれません。どれだけ日々当たり前に、たくさんの人々に助けていただいているか。私は副校长として、近隣の方から叱りを受けるたびに、実のところほっとして、そして心の中で手を合わせているのです。

【重点目標の取組について】

よく考え進んで学習する	明るく思いやりのある	進んで体をきたえる
実際に訪問して学びを深める学習 3年生は、9月19日(金)に福田農園を訪問し、畑の様子を見たり、農作物の説明や農家の仕事の工夫について話を聞いたりしました。2年生は、9月24日(水)に祖師谷駅前交番、29日(月)にまちづくりセンターを訪問し、仕事内容や、利用者、仕事をする際の工夫について伺い、さらに関心を高めることができました。	生き生きと学校生活を送るために すまいるルームでは、個別指導や小集団での活動を通して、自分を見つめ直し、集団の中でどのように行動していくといいかを学んでいます。ここで学んだことは、各クラスでの活動に生かされ、子どもたちは生き生きと学校生活を送っています。周囲の子どもたちも、一人一人のちがいを受けとめて、理解し合おうとしています。	運動会練習 運動会本番が近付いてきました。これまで約4週間に渡り、子どもたちは表現、団体、徒競走の練習に一生懸命取り組んできました。この期間の運動量はどの学年も多かったのではないかでしょうか。運動会を成功させようと意欲的に運動に取り組む姿勢は大変立派でした。本番での子どもたちの輝きや明るい笑顔を期待しています。